

農政の動き 2015年8月7日～8月20日

◇13年度の都道府県別食料自給率を公表◇

農林水産省は、2013年度の都道府県別食料自給率（概算値）を公表した。カロリー（供給熱量）ベースは、鹿児島、秋田、福島、宮崎など17府県が1～7ポイント上昇。佐賀や北海道、沖縄など6道県は1～4ポイント低下した。24都府県は前年度と同じだった。最も高いのは、北海道の197%で、秋田181%、山形136%、青森118%と続く。生産額ベースは、宮崎や鹿児島など6道県が1～14上昇。和歌山や高知、青森など38府県は1～18ポイント低下した。3都府県は前年度と同じ。最も高いのは、宮崎の264%で、鹿児島236%、青森213%、北海道201%と続く。（2015年8月7日）

◇エルニーニョ「冬にかけて続く可能性高い」◇

気象庁は、発生中のエルニーニョ現象は「冬にかけて続く可能性が高い」と発表した。南米ペルー沖の監視海域の海面水温が基準値より高くなる現象で、秋に発生すると低温傾向となり、冬に発生すると東日本で高温傾向となる。（10日）

◇14年特用林産物の生産量 タケノコは大幅増◇

林野庁は、2014年特用林産物の生産量（速報値、主要品目）を発表した。キノコ類では、マツタケは対前年比110.8%となり、マイタケ（109.0%）、エノキタケ（101.8%）、ヒラタケ（101.7%）も増加した。乾シイタケ（90.7%減）、ナメコ（93.5%）などは減少した。タケノコは145.1%で大幅増。（10日）

◇川内原発1号機を再稼働 新規制基準で初◇

九州電力は、鹿児島県薩摩川内市の川内原発1号機を再稼働させた。東京電力福島第一原発事故後に設けられた新規制基準に基づく再稼働は初めて。ただ、猛暑となった今夏も電力は不足していない。使用済み核燃料の処理問題など解決すべき課題も多く残されている。（11日）

◇農水省 降雹被害農業者への資金融通求める◇

8月上旬に関東地方を襲った降雹（こうひょう）・強風被害を受け、農林水産省は、農林中央金庫などに被害農業者への円滑な資金融通や既貸付金の償還猶予などを求める通知を発出した。（11日）

◇トウモロコシ 世界の期末在庫率は0.3減◇

農林水産省は、米農務省による2015/16年度の世界の穀物需給月間報告の概要を公表した。トウモロコシの生産量は、乾燥で欧州連合（EU）が減少するなど前年比減となり、消費量を下回る。世界の期末在庫率は前年度比0.3ポイント減の19.7%と予測した。小麦は生産量が消費量を上回り、期末在庫率は1.4ポイント増の31.0%。大豆も生産量が消費量を上回り、同0.9ポイント増の28.0%だった。（13日）

◇9月1日から秋の農作業安全確認運動◇

農作業死亡事故を減少させるため、農林水産省は9月1日から秋の農作業安全確認運動を実施すると

発表した。「多様な視点を取り入れた具体的な農作業事故対策の推進」をテーマに、10月末までの2カ月間を重点期間とし、関係機関と連携して農業者が参加する会議や集会などで安全の話題を取り上げる「+（プラス）安全」などを推進する。農作業安全ポスターなどによる注意喚起のほか、7月に発生した鳥獣被害防止のための電気柵による死傷事故を踏まえ、電気柵の安全対策の徹底なども呼びかける。
(20日)